

「1日1時間を自分のためだけにあてよう」
(バフェット名言から考える)

どうもゆうです！

読者さん、こんにちは！！

さて、世界を代表する投資家として有名なウォーレン・バフェットについて

時々メルマガで扱ってるのですが

読者さんはバフェットの

「1日1時間を自分(のためだけ)にあてるべきである」

と言う言葉を知ってますか？

実は、現代人の多くというのは、特に日本人のサラリーマンとかは

そうだけど大多数の時間を「他人のために」使っているものです。

それに対してバフェットなんかは「自分自身のためだけに1日1時間を当てるべきだ」

ということを言ってるんですね。

今日はこの辺を考えて生きてみたいです。



「1日1時間を自分のためだけにあてよう」
(バフェット名言から考える)



さてさて、今日はバフェットの

「1日1時間を自分にあてるべきだ」という名言について

考えたいと思います。

まず前提として、一部の人は気づいてるだろうけど

大多数の労働者とかサラリーマンというのは自分の人生のほとんどの

時間を他人のために使っているわけですね。

私は昨日まで日本に一時帰国してまして

それで今はマレーシアに帰ってきてKLの空港で

このメルマガを書いているのですが

やはり日本に滞在していて思ったのが

日本の象徴的なものって「サラリーマン」だなって思ったわけです。

まあみんな同じような服装と髪型で道を歩いているわけで

それはある意味 新鮮で、独特です。

さらに満員電車とかに乗ってぎゅうぎゅう詰めにされて

無表情で出勤し、

週末なんかは東京の繁華街でみんなお酒を飲んで

帰るときの週末の電車で山手線なんかは

これまた電車が酔ったサラリーマンたちで

ギュウギュウすし詰め状態

だったりするわけですね。

(私は羽田空港から終電近くに帰るときにこれに巻き込まれた。

そしてあまりにも人が多くてOLの女の子が反対のドアで

降りたい駅で降りられないで

「降ります～」とか言ってるのに、声が細いから

誰もよけずその子が電車を降りられない

という光景を見た。

周りの年配の近くにいたリーマンたちは

絶対聞こえてるはずなのに見てみぬふりで

誰も声出してそのか細い声の女が電車から降りられるように

助けないから、私はびっくりした。

だから私が大声で「人降りるぞー」と声張り上げたのだけでも。

その女の子はありがとうございます、とか細い声でお礼だけ言って

なんとか降りた。

私はかつて日本に住んでたとき、このような困ってる弱い人が目の前で
いるけど見てみぬふりをするサラリーマンという光景を頻繁に見てるわけです)

それで日本で多くのサラリーマンの姿を見ていて思ったのですが

実は大多数の人というのが

「自分の人生の時間を自分のために使っていない」

現状はあるのだらうと思いました。

朝7時に起きて9時に出勤して、夜18時とか19時まで

働いて、それで帰宅する

という労働パターンがあるわけですが

これって基本的には

会社で労働生産するための行動ですよ。

決して「その人自身のためではない」わけです。

そしてその会社と言うのは株式会社であれば必ず株主に保有されてる

わけで、

このサラリーマンたちが必死に働いて得た利益というのは

これは株主の利益になるわけですね。構造的に。

そして毎日のようにサラリーマンたちが、株主を潤すために必死に満員電車に乗って、人生の時間の大半を費やして労働している姿、というのを日本にいて私は見たわけですね。

大多数の労働者というのは自分のために時間を使えない状態になっていて、いつの間にやら、「他人のために自分の時間を使う」という状況になっているわけですね。

そしていつの日かそれを疑うこともしなくなる、という。

実際の話、

労働拘束時間を含めたら、この1日10時間以上の彼らの労働の時間とか出勤の時間というのは株主を潤すために費やされているわけですね。

それで、これがまあ資本主義の特徴といえば特徴なんですけども

若い頃のバフェットはアメリカでも

似たような状況があったから

そこで「自分の人生を生きたい」と思ったわけですね。

そこで出てきたのが

「1日1時間を自分にあてるべきだ」というバフェットの名言なわけです。

バフェットは投資の神様とも言われますが、

投資だけではなく自分の人生も長期的に考えないといけない、

と考えるわけですね。

バフェットは世界一の投資家として知られていますが

彼の「投資家としての動機」は何か？というのはあまり知られていませんが

実はバフェットが金持ちを目指したのは

「他人にあれこれ指図されることなく、自分の人生を生きたかったから」

なわけです。

そしてバフェットは「自分のために働くのが一番重要である」という

~~~~~  
考え方を持つわけですね。  
~~~~~

ちなみに私ゆうが疑問に思うことというのがあって、

日本では「自分のためにお金を稼ぐ」とか

「自分のために生きる」とか言っちゃいけない「空気」

ってありませんかね？

なんかお金稼ぎに対してやたら崇高な理念を提示しないと
他人のため、みたいに言わないと、

それはいけないことだ、みたいな価値観ってあると思うんですね。

例えば会社の社訓で

「お客様のために なんとかかんとか」

とか

「社会のために なんとかかんとか」

とか、そういうのって多いと思ひまして、それを朝礼なんかで
社員たちに読ませている経営者たちってのは多いと思う。

「俺は俺の人生が充実するように仕事します」

と自分中心で考えるのはなんか悪いこと？みたいな風潮って
日本はあると思うんですね。

何かしらの立派な利他的な大義名分をかかげないとお金稼ぎを肯定できない
社会風土というのがきっと日本にはあるんでしょう。

だから日本では「〇〇のために働いてます」と

〇〇の中に貧困とか子供とか社会的弱者とかそういう言葉を入れると
尊敬される傾向があるわけですね。

そして結果そういう国では大多数の国民が

「他人のために働くことになり

自分の人生をないがしろ」にする傾向が強くなるわけでした

結果、大多数の人が株主のために働き、自分の人生のために

時間を使えないという結果になってるわけです。

まあ大きくはクレイゴトを使つての洗脳体系があるわけで、

仕組まれているわけです。

それでバフェットはお金を稼ぐとか働くというところで

そういうクレイゴトは言っていないくて

「自分のために働くのが一番」と考えたわけですね。

「他人にあれこれ指図されたくもない、

そして自分の働きというのが他人の利益になるというのもなんか嫌だ

だから自分の働きが自分の利益になるように

自分のために働くのが一番」

と考えたわけです、平たく言うと。

これはすごい大事なことだな〜と私は思いまして、

多くの現代人というのは、ちゃんと哲学なり思想を持たないと

意図せずに、「知らず知らず」のうちに他人のために働くことになる
んですね。

実際に多くの労働者が株主の利益のために働いているわけですが
こう「知らず知らず」のうちに無意識に他人のために働いてしまう
そういう構造がこの私たちが生きる社会には存在するわけです。

それで「他人のために働いた人」

と

「自分のために働いた人」

これが10年経過したらどっちが幸せだろう??

ということなんだけど

幸せになるのは当然後者なんですね。

だって自分の幸せや人生の充実のためにその人は働いているわけで
それを目標としているわけだからそれは幸せになる確率が高まるに
決まっている。

一方「他人のために働いている人」というのは

これはあくまで その他人の利益があがる手伝いをしているわけですから

それは10年経過すれば幸せになるのはその他人であって

その人、本人ではないわけですね。

それでその他人(例えば株主)が今まで自分がその人の利益のために
尽くしたのだから、後で恩返ししてくれるだろう、なんて思う人もいるのだろうけど
実際の世の中は無情ですので

大体のケースで恩返しなんかもされませんし、
結局他人のためにずっと働いた人は
自分の人生の満足度がなんか低いまま終わってしまうわけですね。

他人のために、働く人というのは多いわけだけど
大体のケースでその「他人」というのは為政者の官僚だったり
大企業の株主であったりするので、

彼らを潤すだけで、その人本人の人生の満足度は低いまま
ということに
なりやすいわけですね。

バフェットはそれはおかしいという考え方ですから

「自分の人生を生きたい」と考えたから
だから金持ちになろうと
思ったわけです。

ちなみにバフェットと同じように考えていたのがチャーリーマンガー
っていう人で

彼はミシガン大学で数学を専攻して
気象予報官を経てハーバード大学のロースクールで弁護士になった
秀才です。

ただマンガーは弁護士では満足できなくて、
副業として不動産開発を手がけたのだけど

そこでやがてバフェットと出会って、そしてバフェットのパートナー
となっているわけですね。

このバフェットとマンガーの意気投合した部分というのがまさに
「自分のために働くのが一番」
という哲学・思想だったわけです。

ちなみにこの逸話というのは結構バフェット好きな人なら知ってること
だろうけど

当時「自分のために働くのが一番」というのが
バフェットにもマンガーにもお互い新鮮に聞こえたのは

なぜか？

ということだけどそれはやはりアメリカでも

「他人のために働くのが素晴らしいみたいな偽善的な価値観」が
広まっていたんだろうと思いますよね。

実はこの価値観はキリスト教カトリックのものでありまして、
まさにそこには偽善があるわけです。

社会的弱者を救って、その人たちのために生きましようとかですね、
その慈善的な価値観が素晴らしい、みたいなある種の空気がアメリカに
あったんだと思いますね。

そこで人々は自分のために働きたい、家族のために働きたい
という人が大多数だろうに

そこで

「私は世界平和のために働きます」とか

「私は貧困問題解決のために働きます」とか

崇高な理念を言わないといけない「空気」が醸成されていたのだろうと
思います。

結果そうやって為政者のクレイゴトに抵抗できず

搾取されてきたのが人類の歴史です。

実は今の日本がまさにそうで、お金稼ぎする人にはそういう崇高なものが
やたら大衆から求められるわけだけど

私はその日本の雰囲気を知ってるから
たぶんバフェットがこの名言を言った時も
今の日本と同じような雰囲気だったんだろうと
思います。

しかしバフェットは
「他人のために働くのではない、
自分のために働くのだ」
(クレイゴトばかり言うな、という意味が後ろにある)

という考え方をしたわけですね。

だから本当の本当のところはバフェットの名言には偽善的な
ことに対しての強烈な批判が入ってる、
ともいえるわけです。

それで当時「自分のために働くのが一番」という考え方は
偽善があふれる社会では斬新だったようで、

そこで同じような価値観のバフェットとマンガーが会って
意気投合するわけですね。

要するに「自分のために働くのが一番」というのが社会の当時少数派であった
ということで、

そこで少数派であったバフェットとマンガーが意気投合した
ということですよ。

それで当時マンガーは「自分にとって一番大事な顧客は誰か？」
と考えました。

そしてここで、マンガーは素晴らしいくらい自分本位の答えを出すわけだけど

それは

「自分にとって一番大事な顧客は 自分自身だ」

と考えたわけですね。

そこでマンガーなんかは毎日1時間自分のために働くことにしたのです。

そこで朝早く起きて建設や不動産開発の仕事をしたのですが

そこでバフェットとマンガーは出会ってるんですね。

そしてマンガ家は「脚が生えてる本」と言われるくらい

本を読む人だったんだけど

その努力家の姿勢というのはバフェットにも評価されているわけです。

そこでバフェットが言う言葉が

「誰もこのマンガ家を見習い、まず自分自身が顧客になり

次に他人のために働くべきだ。

1日1時間を自分に当てるべきだ」

と言ってるわけですね。

だからバフェットは何も利他的なことを否定してるわけではない

わけです。

バフェットが否定したのはだからあれです、

日本の会社組織とかでよくあると思うけど

「自分の人生を犠牲にして他人のために働くこと」

ですよ。

バフェットが言ってるのは

「まずは自分のために働くことが大事。

そして「次に」他人のために働けばいいんだよ」

ということなわけです。

ここには明確に「自分自身＝私」が存在しているわけですね。

それが最優先である。

一方日本的に礼賛されるのは

自分を犠牲にして、他人のために働くことだろうと思うけど

ここには「自分自身＝主体的な私」がないわけです。

バフェットはそういう人間のあり方を否定していて

「まずは自分自身が 自分の顧客になりなさい」

ということを言ってるわけですね。

そして次にようやく他人のため、という話が出てくる。

それなのでまずは自分自身のために働くことが大事なのだから

「(最低でも)1日1時間は自分に当てるべきだ」

とバフェットは言うわけです。

投資というのは、資金を企業に投じるだけではなくて

「時間を自分のために使い」

そして自分の可能性を広げていくことにつながっていくべきだ、

ということですね。

なのでバフェットのこの言葉はとても深いわけです。

そしてもっと言うとバフェット関係の本を私は昔から読むんだけど

気づいたことがあって

「ニーチェとそっくり」なのですね。

思想体系が。

例えばカトリック的な「他人のために働くことは素晴らしいのです～」

みたいな偽善に対して

ニーチェは直接カトリックという名前を出して

そういった偽善で大衆を洗脳して人々の行動を統制しようとする

カトリックのあり方に批判を加えたけど

バフェットはそういうカトリックとかの名前は出さないけど

「自分のために働くことは良いことだ」

と、言うわけです。

ちなみにこのバフェットの言葉に似た言葉がニーチェの言葉でもあって

バフェットは「時間を自分のために使い」というのを重視するわけだけど

一方ニーチェも、同じような格言を残していて

「1日の時間の3分の2を「自分のために」使っていない者は

奴隷同然である」

と言ってるわけですね。

だから起きてる時間が16時間だったとしたら

1日10時間くらいは自分のために使えていないとその人は奴隷だ

とニーチェは言ったわけです。

「自分のために使う時間」について

バフェットは1時間でもいい、というスタンスですが

ニーチェは最低10時間だ

くらいの違いですよ。

ただ Buffet も ニーチェ も、実は根本的に同じ思想が
根底にあるわけですね。

この辺が分かると Buffet の格言の奥深さが分かってくるわけですね。

それでまずは私たちは自分自身のために働くべきだ、
ということにして、

これが自営業という生き方でありませぬ。

そして Buffet が言う、1日1時間を自分に使う、
というのはとても大事なことですね。

この1日1時間というのをもっと伸ばせるように私たちは
努力していくといいんだと思います。

それで今のその働きが「他人のため」なのか「自分のため」なのか
は考えたほうがよさそうですね。

多くの場合自分のためになってると
自己暗示をかけてるだけであったりして

実際は他人のために働いてることが多いものなので、

ここで自分本位の、読者さんだけのために働く時間というのを
作るのは重要になってくると思いました。

ちなみに日本では家族との時間を犠牲にして
会社なりで働く人が多いわけですが

一方日本以外の国は 家族との時間を過ごすためにカネが必要だから
会社なりで働く、と考える人が多いわけです。

だから仕事が終わったのに上司や会社が例えば
飲み会を空会的なものを作って強要したとしたら、
そこで家族と過ごす時間を上司が剥奪しようものなら、
それは問題になるわけですね。

あくまでも「自分の幸せ」というのが先にあって
その後に顧客とか他人の幸せってのがあって、と考えるのが日本以外の国の
傾向だと思います。

バフェットの「自分のために働くのが一番重要である」というのは
まさにその価値観を象徴するものだけど

これは今の日本人の大多数にも大事な価値観じゃないかな～
なんて気もしました。

そして「自分のために働くのが一番重要」であると考えたから
バフェットは投資一直線になれたわけですね。

そういう意味で考え方、マインドとしてはこの辺がすごい
投資家として重要なのかな
って私は思いますね。

それではまた！

ゆう